

キク科 タケダグサ属

ダンドボロギク (段戸襤褸菊)

Erechtites hieraciifolius (L.) Raf. ex DC.

自生環境

林縁、畑地、道ばた など

原産地

北アメリカ

予想される被害

駆逐



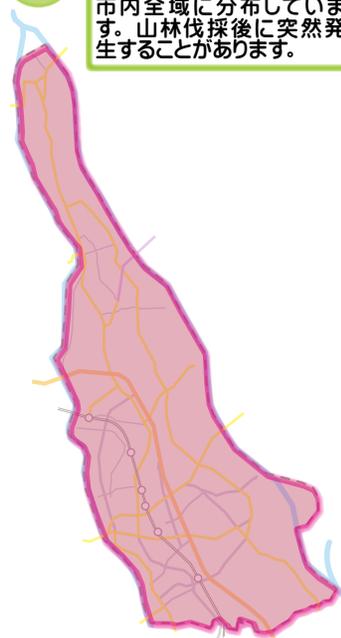
外来種でありながら、里山周辺の比較的自然豊かな場所にも出現します。そのため、その地にもともと自生していた在来種の生活場所を奪ってしまう可能性があります。

特徴

- ☆ 外来種でありながら山地に多く、最初に見つかったのは1933年に段戸山（愛知県）です。名前は発見地にちなんだものです。ただ近年は平地や都市部でも増加傾向にあります。シカが嫌って食べないため、山地でもシカの食害によって従来の植生が破壊された場所では、増加傾向にあります。
- ☆ 茎は直立し、高さ50～150 cm ほどになります。茎の上部は細かく枝分かれし、夏から秋にかけ、多数の頭花をびっしりとつけます。何本もの筒状花が束になって1つの頭花となっています。筒状花は淡黄色です。
- ☆ タネには白くて長い綿毛があり、果実期にはふわふわとした白い綿帽子がよく目立ちます。タネはこの綿毛によって、風に舞いやすく、遠くに運ばれていきます。

市内の分布状況

市内全域に分布しています。山林伐採後に突然発生することがあります。



伐採後に突然現れることも

ダンドボロギクと近縁種のベニバナボロギクは、外来種でありながら、山地でよく見られる傾向があります。火災や伐採、シカの食害、土砂災害などによって土が露わになると、突然現れ、しばしば大群落となります。しかしこれは長くは続かず、時間とともに元の植生が回復すると、やがて姿を消してしまいます。このような生活を送る植物をパイオニア植物（先駆種）と言います。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

